

阿真委員 提出資料

有賀委員 提出資料

池田委員 提出資料

海野委員 提出資料

大野委員 提出資料

嘉山委員 提出資料

川上委員 提出資料

阿真委員 提出資料

第2回周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会

平成20年11月20日(木)

救急は、本来重症患者
のためのもの

子ども達を守るための
私たちの取り組み

【055】小児医療 守ろう！子ども達の命

なぜ、ふつうの母が？
会を立ち上げたきっかけ

- ▶ 真夜中、待合室に溢れかえる子ども達
疲労の中で命を守ろうとする医師、看護師さん達
- ▶ 小児科医が天職・・・過酷な勤務で働き
うつ病を発症された中原利郎先生の過労死
- ▶ 小児は入院の必要がない軽症患者が9割以上
あわせてOECDとの医師数比較

【055】小児医療 守ろう！子ども達の命

『知ろう！小児医療 守ろう！子ども達』の会
目指すこと

- ▶ 「全ての親が、子どもの病気に
ついての知識を持ち、納得できる
医療をうけられる社会」
- ▶ 「子どもの命を守るために・・・
医師の労働環境の改善」

【055】小児医療 守ろう！子ども達の命

①お母さんにむけて
子どもの病気を学ぶ講座を開催
電話やサイトによる相談案内の
啓蒙 (子どもの救急サイトと#7119、#8000紹介)

小児科医から直接学ぶ機会
「子どもの病名とその対処法」
「同じ症状でも救急外来に行くべきときは」
「お医者さんとの付き合ひ方、かかり方、伝えるべきこと」
「予防接種」「いれいん」など
※異なる知識だけでなく、納得できる医療の受け方、
医師とのかわり方などについても

【055】小児医療 守ろう！子ども達の命

②自治体への働きかけ

母親学級、乳児健診で子どもの病気になる機会を提案と小冊子の配布を依頼

全ての親が子どもの病気について学ぶ機会をつくるために自治体で行われている、母親学級や乳児健診において、子どもの病気の小冊子を配布することや子どもの病気を学ぶ機会があるようにと働きかけを行っています。
(東京、埼玉、山口)

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

③医療界改善にむけて

なぜ医師は24時間、36時間連続勤務などという働き方で労働基準法に違反しないか？→ベストな状態???

小児医療の厳しい現状の改善にむけ、勉強と働きかけ

医療関連のシンポジウムや学会に参加し親の立場からの声をあげています

小児科医の過重労働など小児医療が抱える問題の改善のためには国や医師だけでなく、私たち親にもできることがあるのではないかと考えています

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

知ってよかった！それが活動の原点です。

- 子どもの病気の対処法
- 医師とのかかわり方、薬との付き合い方
- お産、命が絶対的なものではないということ
- トリアージ...軽症だからといって待つのはつらい、お互いさまの気持ち

知って安心した。納得した。
だから、一人でも多くの方に伝えたい。

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

会の協力医・豊島先生の取り組み

神奈川県 慢性的なNICUベッド不足

県外への母体搬送

平成18年：約100件

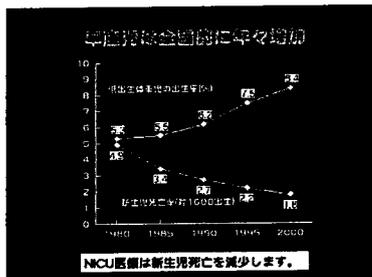
平成19年：約70件

近隣の都道府県へ妊婦を救急搬送

取寄先決定まで120分以上：46%(平成18年)

出生数の多い神奈川県は<新生児医療過疎>
・周産期・新生児搬送システムは機能不全
・NICUを必要としている新生児は多い。

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会



【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

NICU医療

- 様々な医療機器があってもはじめて救命できる。
- 病室ではなく、未熟児。成熟には時間が必要。
- 長期間の集中治療と入病が必要。
- 適切な医師が提供できないと様々な搬送症を生じうる。



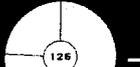
NICU病床(高価高質のセット)は慢性的に不足。

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

全国主要NICU126施設の実態調査

全国主要NICUの9割：母胎搬送を断った施設あり。

搬送を断らないための対策



NICU増床が困難な理由



新生児医療を崩壊させないためには
新生児科医の育成が急務！

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

短期有給研修医制度の提案

<柔軟性のある研修プログラム>

- 原則6ヶ月の短期間研修
- 期間・能力等に柔軟に対応可能な研修内容
- 最大3名まで研修枠を確保。

NICUの必要とする患者が多く、経験豊かな新生児科医がいて、

柔軟性のある研修医が育ち、

神奈川県は活性的なNICU医療を育むことができる。

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

提案事業の目標

1. 2年間で3名以上の研修医を受け入れ、育成。
2. こども医療センターの新生児医療体制を整備、向上させ、重症新生児の受入拡大とともに、神奈川県の高圧期抜脱医療システムの充実を図る。
3. 都市部と地方の連携した新しい研修医制度のモデル県を目指す。

神奈川県に新生児医療を大切に考える医師に集まってもらい、よりよい新生児医療を展開する。
 ー未来の新生児医療の人材や技術を全国に発信する！

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

周産期、私たちにできること
 まずは、知ることから・・・

- ▶ 医療は万全？絶対的なもの？一救えない命もある・・・
- ▶ 現在、私たちを取り巻く現状
 あまりにも深刻な新生児科医の不足、
 救急医の不足、NICUベッドの不足
 搬送システムの問題点

- ▶ ～知ろうNICU 頑張れNICUプロジェクト～
 妊娠120家族に1家族はNICUに入る現状
 ⇨ 対岸の火事ではありません

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

お母さんを温かく育てる社会へ・・・

産前 → 産後

- 母親学級の見直し
 既存プログラムに加え、
 お産は今も命がけということ
 周産期・NICUについて
 (いかに未受診の妊婦が
 NICUに混乱をきたすのか)
 お母さん達が必要な情報・
 時代にあったプログラムを！
- 産後教室は、自治体によっ
 て差がある。
 “全国統一で開催”
- プログラムには、子どもの
 病気(≠7119&≠8000など
 の情報)・母親の体の変化
 など産後のケアに特化した
 専門家・先輩お母さん等を
 呼んで、プログラムを！
- スウェーデンでの取り組み

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会

～すべては子ども達の「未来」のために～



私たちひとりひとりにできることがあります

【知ろう！小児医療 守ろう！子ども達の命】の会